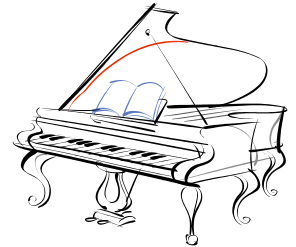




県立図書館60周年記念展示 コレクション紹介シリーズ

野村光一文庫

展示資料一覧



凡例

- 〈図書〉〈雑誌〉 タイトル. 著者. 出版社. 巻号. 出版年. 請求記号(資料番号)
 〈プログラム〉演奏者. 演奏会場. 開催年. (整理番号)
 ※「野村光一文庫」以外の参考展示資料(当館所蔵の一般資料)については掲載していません。

【A 音楽との出会い】

- 〈図書〉歌舞音楽略史 乾. 東京金玉出版社. 1887. NO-1513(40167520)
 明治年間の音楽に関する文献の中で最も重要な古典の一つとされる資料の初版。日本の上代から近世初期までの歌舞音楽の歴史を記述。日本研究家として有名なバジル・ホール・チェンバレンが序文を書いている。
- 〈図書〉音楽取調成績申報要略. 大日本図書会社. 1891. NO-916(40161556)
 音楽取調掛(後の東京藝術大学)の伊澤修二が音楽伝習開始以降の経緯をまとめ、文部卿大木喬任(たかとう)宛に提出した『音楽取調成績申報書』を一般読者向けに頒布したもの。日本の音楽教育の基礎を築いた音楽取調掛研究の基礎資料。
- 〈図書〉東京音楽学校入学試験問題とその解答. 高井楽器店. 1929. NO-1419(40166589)
 受験者及び研究者のために、大正11(1922)年から昭和4(1929)年の試験問題と解答を掲載したもの。聴音、新曲(視唱)、小学唱歌、器楽、楽典、国語科、英語科の試験問題がみられる。巻末には入学案内として、入学資格、授業料、服装などが掲載されている。
- 〈図書〉コーテ氏著音楽史要. 東京音楽学校学友会. 1913. NO-1181(40164204)
 コレクション中最も古い日付(1914.12.19)の署名あり。府立二中卒業後、東京に移ってすぐの頃に入手したか。
- 〈図書〉The Russian opera. Rosa Harriet Jeaffreson Newmarch. London H. Jenkins. 1914. NO-558(40157976)
 コレクションの洋書の中で最も古い日付(1915.3.16)の署名あり。慶應義塾に入学したこの年の署名がされた洋書が多数ある。堀内敬三は、「私達は…英語の音楽書を読んで智識を輸入し、兎に角当時在った音楽に対しては徹底的な研究を行って居た」と述べており(『ヂンタ以来』)、その様子がコレクションからもうかがえる。
- 〈図書〉續洋楽夜話. 大田黒元雄. 音楽と文学社. 1917. NO-1096(40163354)
- 〈図書〉第二音楽日記抄. 大田黒元雄. 音楽と文学社. 1920. NO-1114(40163537)
 「音楽と文学社」では雑誌「音楽と文学」のほか、大田黒元雄の著書・訳書を刊行していたが、大田黒氏の留学にともない活動を停止した。コレクション中の5冊いずれにも大田黒の署名がある。
- 〈プログラム〉エルネステイーネ・シューマン＝ハインク. 帝国劇場. 1921. (210516)
 コレクション中最も古い音楽界プログラム。シューマン＝ハインク(1861-1936)はオーストリア人オペラ歌手で、声域が広く、ワーグナーやイタリア・オペラに定評があった。初来日時演奏会パンフレット。
- 〈プログラム〉[演奏曲目解説及歌詞]. 東京音楽学校. 1924
 東京音楽学校の演奏会は、まだ知られていない西洋の音楽作品を演奏し、当時の日本音楽界をリードした。コレクションには大正13(1924)年から昭和13(1938)年の同校演奏会プログラムがある。

【B ロンドン留学～批評活動の開始】

- <図書>The Oxford history of music I. Oxford Clarendon Press. 1901. NO-406(40156457)
「Oct.5.1921 London」の署名あり。オックスフォードの「音楽史」全6巻をロンドン留学後すぐ、勉強の手始めとして入手したと思われる。
- <図書>How to become the pianist. Mark Hambourg. C.A. Pearson. 1922. NO-103(40153421)
「August 26th 1922 London」の署名あり。野村氏は、慶應義塾時代に東京音楽学校分教場でピアノを習い、ロンドンでもデパートで小型グランドピアノを買い求め、ピアノを習っていた。ピアニストになる夢は早々にあきらめたが、音楽研究のために習っていたと述べている。
- <プログラム>アルフレッド・コルトー. クイーンズ・ホール. 1921. (イキ211008)
<プログラム>アルフレッド・コルトー. ウィグモア・ホール. 1921. (イキ211226)
<プログラム>アルフレッド・コルトーほか. シャトレ座. 1922. (フ220414)
コルトーは20世紀前半を代表するフランスのピアニスト。野村氏は「いちばん印象が深くていまだに音楽の価値という点で私の音楽鑑賞に役立ったピアニスト。演奏はどれも官能的、感情的だった。演奏が終わると聴衆がステージに駆け上がり、何曲もアンコールを弾いた。」と留学時の演奏会を振り返っている。
- <プログラム>ヴラディミール・ド・パハマン. ロイヤル・アルバート・ホール. 1922. (イキ220521)
<プログラム>ヴラディミール・ド・パハマン. クイーンズ・ホール. 1922. (イキ220610)
パハマンは、演奏中に聴衆に話しかけるなどの奇行がイギリスで非常に人気であったピアニスト。野村氏は「20世紀初頭に最大のショパン弾きといわれた一人。彼ほど音の美しいピアニストは今まで接したことがない。ショパンのタッチが真珠ならば、彼のは絹糸の如きものであった。」と評している。
- <プログラム>フリッツ・クライスラー. ロイヤル・アルバート・ホール. 1921. (イキ211211)
「愛の喜び」などの作曲で知られる世界的なヴァイオリニスト、作曲家。この演奏会では、ベートーヴェンのクロイツェル・ソナタのほか自作の小品を演奏している。
- <プログラム>セルゲイ・ラフマニノフ. クイーンズ・ホール. 1922. (イキ220506)
大ピアニストとして評価の高かった作曲家ラフマニノフの演奏会。この演奏会では、自作ではなくモーツァルトやベートーヴェンのソナタを演奏している。野村氏は「重々しくて、光沢があって、力強く、鐘が鳴るみたいに、燦銀がかかったような音で、それが鳴り響くのである。まったく理想的に男性的な音でした。」と評している。
- <プログラム>ヤツシヤ・ハイフェッツほか. ロイヤル・アルバート・ホール. 1922. (イキ220528)
ハイフェッツは「ヴァイオリニストの王」と称される20世紀を代表する演奏家。この演奏会当時20代前半であったが、すでに世界中で演奏活動を行っていた。翌1923年に初来日を果たし、野村氏が東京朝日新聞に音楽批評を書いている。
- <プログラム>ミチャ・ニキシユ. クイーンズ・ホール. 1922. (イキ221102)
ミチャ・ニキシユは、20世紀初期の大指揮者アルトゥール・ニキシユの息子。ピアニストやジャズバンドのリーダーとして活躍した。この演奏会では、ブラームスのソナタのほか、ショパンのノクターン、ワルツ、バラードがプログラムとなっている。
- <プログラム>ジャック・ティボーほか. サル・ラモー. 1921. (フ211225)
ジャック・ティボーは、クライスラーと並び称された名ヴァイオリニスト。戦前と戦後の2回来日している。野村氏は、来日時の演奏会では感激に打たれているが、このときはあまり感銘を受けなかったと述べている。
- <プログラム>グスタフ・クローンほか. 東京音楽学校. 1924. (241129)
東京音楽学校「大正十三年秋季大演奏会」。ベートーヴェンの「第九」日本公式初演時のプログラム。野村氏は著書で「そのときの感激はすさまじいものでした。上野公園から友人とべらべらしゃべりながら歩き、新橋のたもとまで来てしまった。」と述べている。
- <プログラム>ヤツシヤ・ハイフェッツ. 帝国ホテル演芸場. 1923. (231109)
ハイフェッツ初来日時の演奏会。関東大震災で帝国劇場が消失したため、帝国ホテルを会場に開催した。ハイフェッツはこの演奏会翌日より震災慈善演奏会を行っている。この演奏会評が東京朝日新聞に掲載され、野村氏の新聞批評の皮切りとなった。多色刷の和紙でできたプログラム。
- <プログラム>ジャック・ティボーほか. 帝国劇場. 1928. (280526)
クライスラーと並び称された名ヴァイオリニストの初来日演奏会。野村氏は「5日間のうち、1日欠かしただけで後4日すっかり聴いた。そして近来稀な感激に打たれたのである。」と著書で述べている。

【C 音楽評論家としての活躍】

<図書>女性のための音楽教養講座 第2巻 音楽と女性. 野村光一ほか著. 音楽之友社. 1960. NO-1042(40162810)

多くの音楽評論を著している野村氏だが、このように女性向け、子ども向けに書いたこの著書もある。この図書の巻頭に寄せている文章で野村氏は、女性が芸術家の創作に影響を与えている例として、ベートーヴェン、ベルリオーズ、ワーグナーのエピソードをあげている。

<プログラム>神奈川県立図書館・音楽堂落成開館記念行事. 神奈川県立音楽堂. 1954. (541104)

野村氏は県立音楽堂の設立に多大な尽力があった。開館記念行事ではニクラウス・エシュバツハー指揮NHK交響楽団の演奏や、神奈川県在住の演奏家による大音楽会が開かれた。「県立音楽堂音響特性調査票」がはさまれている。

<プログラム>神奈川県立音楽堂友の会 第5回演奏会. 田中希代子. 神奈川県立音楽堂. 1955. (550908)

「音楽堂友の会」は、企業に頼らず自分たちの手で質のよい音楽会を開催しようという気運から設立され、野村氏も会長をつとめた。田中希代子はショパン・コンクール日本人初の入賞者。プログラムの曲目解説を野村氏が書いている。

<図録>大ショパン展 主催:毎日新聞社・日本ショパン協会. 1970. 小田急百貨店

第8回ショパン国際ピアノコンクールを記念して開催された展覧会の解説目録。ショパンの出生証明書や自筆楽譜、デスマスク等、数多くの貴重な資料が展示された。日本ショパン協会会長である野村氏の謝辞がみられる。

<図書>ショパン. ウィエルジンスキ. 野村光一、野村千枝子訳. 創元社. 1954. NO-962 (40162018)

原書は、従来フランスで進められていたショパン研究がはじめて母国ポーランド人によりなされた点で意義を持つ資料。野村氏が夫人とともに翻訳した。千枝子(千枝)夫人にはほかに『ショパンの遺産』、『愛の人フランツ・リスト』の翻訳がある。

<図書>Chopin's musical style. Gerald Abraham. Oxford University Press. 1939. NO-61(40153009)

「August 1954 Kamakura」の署名あり。邦訳『ショパンの様式』(小沼ますみ訳 音楽之友社 1979)。野村氏による多くの書き込みが見られる。

<プログラム>日本ショパン協会10月例会 阿部緋沙子. 東京文化会館. 1967. (671019)

日本ショパン協会では、例会として年に数回ピアノ・リサイタルが開催されている。野村氏が会長を務めていた昭和41(1966)年から現在まで続いており、2014年4月現在266回を数えている。(日本ショパン協会ホームページより)

<プログラム>第9回学生音楽コンクール 入賞者発表演奏会. 河野元ほか. 鎌倉市公民館. 1963. (630707)

“音楽活動はまず自分の町から”が持論であった野村氏のコレクションには、鎌倉市内で開催された音楽会のプログラムも残されている。この演奏会は、野村氏が創設した「鎌倉音楽クラブ」が主催しており、プログラムにも代表として名前が掲載されている。

<プログラム>第一回合唱研究発表会 鎌倉合唱協会. 鎌倉市御成国民学校講堂. 1946. (461103)

<プログラム>かまくら市民音楽祭 学生音楽コンクール発表演奏会. 鎌倉市中央公民館. 1955. (550605)

<放送台本>音楽夜話 ー今年のホープー

野村氏は、ラジオ・テレビの音楽番組の解説としても活躍し、コレクションにはNHK「音楽夜話」を中心に多くの台本が残されている。昭和35(1960)年1月2日放送の「音楽夜話」では、中村絨子氏ら音楽コンクール1位入賞者を迎え、野村氏が司会を担当している。

【D コレクション紹介】

<図書>The present state of music in France and Italy. Charles Burney著. T. Becket and Co. Strand. 1773. NO-678(40159170)

18世紀イギリスの音楽史家チャールズ・バーニーによるイタリア、フランスの見聞録。18世紀音楽の貴重な歴史的証言として繰り返し再版されている。野村光一文庫の中で最も出版年が古い。

<図書>Beethoveniana 1. von Gustav Nottebohm著. Leipzig J. Rieter-Biedermann. 1872. NO-728(40159675)

ドイツの音楽学者ノッテボームがベートーヴェンの手稿譜を分析、紹介した資料。邦訳『ベートーヴェニアナ』、『第二ベートーヴェニアナ』もコレクションにあり。

<図書>Life of Chopin. Franz Liszt著. London W. Reeves. 1899. NO-78(40153173)

ショパンと深い交流のあった作曲家フランツ・リストによるショパン伝の英訳。ショパンの伝記としては最初の資料。邦訳『ショパン』(亀山健吉、速水冽訳 宇野書店 1949)もコレクションにあり。

<図書>Aspects de Chopin. Alfred Cortot著. Paris Michel. 1949. NO-85(40153249)

野村氏が好んだピアニスト、コルトーによるショパン論。「ショパンの作品」、「ショパンの演奏会」、「ショパンの性格」など7つの小論からなる。邦訳『ショパン』(河上徹太郎訳 新潮社 1951)あり。

<図書>教師必携ピアノ古今審美学説. A. マルモンテル著. Murakoshi訳. 出版者不明. 1888. NO-844(40160830)

19世紀フランスのピアニスト、教育者のアントワーヌ・マルモンテルによるピアノ教育書の邦訳。マルモンテルはビゼーやドビュッシーの師で、ピアニストとしての系譜はコルトーにつながる。野村氏は「めずらしい本」と言った。

<図書>Jazz book. Paul Eduard Miller. Armed services edition. 1944. NO-29(40152688)

<図書>The state of music. Virgil Thomson. New York Editions for the Armed Services. 1939. NO-42(40152811)

「Armed services edition」は、第二次世界大戦中にアメリカ軍が民間出版社の協力を得て出版していたペーパーバック。海外で戦う兵士たちの娯楽・教養のために、1322点、総発行部数1億2300冊が配給された。

<LP>ワルシャワ国際ショパン・コンクール記念アルバム 1965年第7回(4枚組). マルタ・アルゲリッチp(ほか). COLUMBIA. 1966. CLP13/N1664/1667(40116709)

第7回(1965年開催)の記念アルバム。第1位のマルタ・アルゲリッチ(ピアノ協奏曲第1番)や、第4位の中村紘子(練習曲 Op. 10の7)などが収められている。解説の「ショパン・コンクールを語る」に野村氏と中村氏による対談が収録されている。

<LP>ホロヴィッツの芸術(TEST盤). ウラディミール・ホロヴィッツp. 日本コロムビア. CLP13/N1915(40116709)

ホロヴィッツ演奏のベートーヴェン:ソナタ第8番、ショパン:練習曲「革命」ほか収録レコードのテスト盤。マスタリング指示書には「Apr.9.'64」の記載あり。日本コロムビアからの原稿依頼が同封されている。

<プログラム>BOSTON SYMPHONY ORCHESTRAPROGRAM 1921-1922

ボストン交響楽団第41期定期演奏会プログラム。コレクションには、第40期(1920-1921)から第46期(1926-1927)のプログラムがある。「埜村」と蔵書印はあるが、入手時期等は不明。

<プログラム>VII MIEDZYNARODOWY KONKURS PIANISTYCZNY · IM. FRYDERYKA CHOPINA

第7回ショパン国際ピアノ・コンクールの参加のための規則書。ポーランド語、フランス語、ロシア語、英語、ドイツ語の5か国語で書かれている。野村氏は著書によると1970年に開催された第8回を見学している。

<プログラム>CONCOURS MUSICAL INTERNATIONAL REINE ELISABETH PROGRAMME DE L'EPREUVE FINALE

1972年に開催されたエリザベト王妃国際音楽コンクール・ピアノ部門のプログラム。最終審査のプログラムには、1位になつたワレリー・アフアナシエフのページなどに野村氏の多数の書き込みがみられる。

<プログラム>concours international marguerite long jacques thibaud

ロン・ティボー国際音楽コンクールのプログラム。この年の日本人出場者には、田近完氏、花房晴美氏らの名前が見られる。

<プログラム>第8回音楽コンクール. 東京日日新聞社、大阪毎日新聞社主催. 日比谷公会堂. 1939.

音楽コンクール(現・日本音楽コンクール)は、昭和7(1918)年にはじまり今なお続き、日本のクラシック・コンクールとしては最古の歴史と権威を持つ。野村氏は創設時より中心となって携わった。第8回コンクールでは江藤俊哉氏が当時12歳で1位に入賞している。

<プログラム>第23回音楽コンクール. 日本放送協会、毎日新聞社主催. 日比谷公会堂. 1954.

<プログラム>第1回學徒音楽コンクール. 國民文化協會、サン寫眞新聞社主催. 共立講堂. 1946.

現在の全日本学生音楽コンクールの前身とされるコンクール。終戦の翌年、「新しい日本の前途は青年の双肩にかゝつてゐる・・・」として開催された。本選会と受賞者発表演奏会のプログラムが残されている。受賞者には館野泉氏(国民学校第4学年)の名前がみられる。

主要参考文献

野村光一 著. 音楽青春物語. 湖山社, 1949. 760.49/3(22688600)

野村光一 著. ピアノ回想記. 音楽出版社, 1975. NO-836(40160756)

野村光一 [ほか] 著. 日本洋楽外史. ラジオ技術社, 1978.7

鎌倉市文化推進課編. 野村光一 永遠の音楽青年(鎌倉市文化人ビデオ). 1988. KV28/カマク (41171745)

中曽根松衛 編著. 音楽界戦後50年の歩み. 芸術現代社, 2001.10. 762.1KK/191(21426416)

神奈川県立図書館・音楽堂30年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984. 016.21/50/84(12813416)

お問い合わせ

神奈川県立図書館資料部情報整備課

〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL:045-263-5922